



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年11月13日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:4名

指導員:4名

テーマ 木の実・草の実

秋は実りの季節ということで、メインのテーマは木の実や草の実ですが、来月になると落葉が進んでしまうので、色づき始めた紅葉や黄葉を楽しみながら回りました。もっとも、桜は気象条件によるのか、ほとんど葉を落としていました。

実は、色や形に注目して観察しました。色でよく目についたのは赤系統で、クロガネモチ、ハナミズキ、ノイバラ、カラスウリ、サンシュユなどです。カラスウリの実は竹藪の縁にたくさんぶらさがっていましたが、色づいて初めて存在に気づきました。種の形が打出の小槌に似ていることから金運がよくなると言われ、財布の中に入れていたという参加者もいました。黄系統は、センダン、ヘクソカズラ、ワルナスビ、イチヨウ(銀杏)です。ワルナスビは白い花は見たことがあ



(草の間にあったワルナスビの実を観察)

っても、直径1cmほどで黄色く熟したプチトマトのような実の実物を見たのは初めてという人もいました。青系統はクスノキ、ノブドウ、ムクノキ、オオイヌホオズキなどで、白色はナンキンハゼでした。

形の面白い実としては、種子についた白い毛を仙人の鬚にみたてたセンニンソウ、羽根つきの羽根を小さくした形のハナソノツウバネウツギ(アベリア)、3方向に半円形の板状翼を伸ばしその中に薄い膜に包まれた種子を宿したオノドコロ、紙風船状で熟すと3枚に分かれるモクゲンジの実などを観察しました。

夏の間、クズやオオブタクサなどが繁って、足を踏み入れることができなかつた川原の区域も11月に入って草刈りが行われ、地面に掘られたキツネの巣穴を見ることができました。キツネはずっと生息しているようです。

この日は、朝の天気予報では午前中から雨が降り始めるとのことでしたが、観察会終了までは曇り空で、傘をささずに回れラッキーでした。

冬鳥はジョウビタキが見られただけですが、今年は飛来が遅れているツグミなども来月には姿を見せ、にぎやかになっていることでしょう。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

昆虫:キタキチョウ、ヨコツナサシガメ

鳥:ヒヨドリ、モズ、トビ、キジバト、シジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハクセキレイ、ウグイス(地鳴き)、コゲラ(声)

花:セイタカアワダチソウ、キダチコンギク、ヒメジョオン、ハルジオン、コセンダングサ、アレチハナガサ、シロダモ



色づいて気づいたカラスウリ



プチトマトのようなワルナスビ



仙人の髭に見立てたセンニンソウ



今年は豊作だったモクゲンジ